

2018年5月27日

福音書からのメッセージ

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。
(ヨハネによる福音書 3章 16節)

今日の福音書には、ニコデモとイエス様との会話が書かれます。ニコデモは、ヨハネによる福音書に三度出てくるだけです。彼はファリサイ派に属するユダヤ人たちの議員でした。ファリサイ派は、とても生真面目なグループであり、彼らは安息日や断食など律法を守ることに熱心で、施しも積極的におこなっていました。そして何よりも、宗教的な清めを大事にしていました。しかし自分が清くならねばという思いと同時に他の人の「けがれ」を指摘し、決して交わろうとはしませんでした。

彼らファリサイ派は、貧しく質素に、神さまの前に正しく生きてきたつもりです。だから自分たちこそ神さまに選ばれた民であり、きっと神の国に入れるのだと思っていたようです。

しかしファリサイ派に属していたニコデモは、ある夜イエス様の元に来て対話を求めます。どうしても聞きたいことがあったのでしょうか。彼は夜、イエス様を訪ねます。なぜ夜だったのでしょうか。人の目を恐れていたのか。イエス様はファリサイ派と対立していました。そんなイエス様に教えを乞うことは、裏切り者扱いされる可能性もあります。それとも昼の間に悩み抜いたことを、夜になって打ち明けようとしたのか。誰にも邪魔されない夜に、じっくりとイエス様と語り合おうと考えたのか。

ニコデモはイエス様のことを「神のもとから来られた教師」だと言い、また「神が共におられるのでなければ、そのようなしるしをおこなうことはできない」と語りません。イエス様の中に神さまを見ていたので



しょう。

ところがイエス様はニコデモに、「人は新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」と言います。ファリサイ派の人たちは、神の国に入れると思っていました。ユダヤ人に生まれたから、良い行

いをしているから、けがれた人たちと交わらないから、神の国に入れると思っていました。しかしイエス様は言います。神の国に入るためには、新たに生まれることが必要だと。

新たに生まれるという言葉の本来の意味は、上から生まれるということです。上から与えられるものによって、生まれさせられる。神さまから与えられた霊によって、新たにされるということです。神さまからの力に頼らなければ、わたしたちは生きる者となれないのです。

ニコデモはこのイエス様との対話を通して、その後どうなっていたのでしょうか。ヨハネ福音書によると、ニコデモはイエス様が十字架で息を引き取ったあと、恐れることなく葬りの準備に来ました。ニコデモは新たに生まれていたのです。

わたしたちにも、神さまから霊が与えられています。その霊を受け入れ、新たに生きる者となりましょう。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>